

お使いになる方へ

<音声の使い方>

会話

使い方1. 授業の初めに聞かせる場合

- ①学習者の日本語習得がまだ進んでいないときは、音声を聞かせるだけでよい。
- ②学習者の日本語習得がある程度進んで、一度聞いただけで70% ぐらい理解できると予測される場合は、音声を聞かせたあと内容確認の質問をして、理解度を見る。その上で練習に入る。

使い方2. 練習が終わった後で聞かせる場合

- (1)会話例を聞かせる。
- (2)内容確認の質問をして、全体の流れをつかませる。
- (3)一文ずつ聞かせてリピートをさせる。
- (4)会話例の流れを参考にして、学習者自身のことで会話をする。

CDを聞きましょう

- (1)例を聞かせて、質問をして、答えさせる。
- (2)1 を聞かせて、例の答えの書き方を参考に、聞き取ったことをメモさせる。
- (3)例と同じ質問をして、口頭で答えさせる。
- (4)必要ならもう一度聞かせて、リピートさせる。
- (5)同様のことを2、3についても行う。

※未習の表現が入っている場合は、前後関係で理解させる。必要なら取り上げて練習して、理解、習得させる。

応用

- (1)応用会話を聞かせる。
- (2)メインテキストの質問をして、口頭で答えさせる。聞いたことをそのままに近い形で言えればよしとする。
例：7課－2応用(1)
質問：ズボンはどこにありますか。
解答例：3階の紳士用品売り場にあります。3番のレジのそばにあります。
- (3)もう一度聞かせて、リピートさせる。

※ 表現を豊かにするために未習の表現が入っていることがあるが、それは前後関係の中で理解させる。必要なら取り上げて練習してもよい。

まとめ

使い方1.

- (1)全体の流れを理解させるために一度聞かせる。
- (2)内容の切れ目まで聞かせ、内容確認の質問をする。
- (3)もう一度聞かせ、リピートさせる。
- (4)同様に最後までやる。
- (5)時間があれば暗記させたり、同じ場面設定で、学習者自身のことで会話をさせてもよい。

使い方2.

- (1)会話の一部を空欄にしたシートを作って学習者に渡し、音声を聞かせて、穴埋めをさせる。
- (2)穴埋めをした会話を発表させて、合っているかどうか確かめる。
- (3)もう一度聞かせて、リピートさせる。
- (4)時間があれば、暗記させたり、同じ場面設定で、学習者自身のことで会話をさせてもよい。

※表現を豊かにするために未習の表現が入っていることがあるが、それは前後関係の中で理解させる。必要なら取り上げて練習してもよい。

学習者の学習効果をあげるために、学校だけでなく自宅で学習させるのも有効です。学習者が自宅で何度も聞き、リピートし、書き取る練習を続けていくと、聴解力と運用力が加速度的に伸びていきます。

<収録部分>

『メインテキスト』
のページ

CDとトラック番号 →

A-02 P03

練習 1

だれとだれがあいさつをしていますか。

例 A：はじめまして。王^{おう}です。

B：はじめまして。李^いです。

A：どうぞよろしく。

B：どうぞよろしく。

1 A：はじめまして。周^{しゅう}です。

B：はじめまして。ロバートです。

A：どうぞよろしく。

B：どうぞよろしく。

CD収録部分 →